

日本音楽集団

PRO MUSICA NIPPONIA

第216回定期演奏会

The 216th Regular Concert

日本人の求める音世界 — 躍動の指揮、 海老原光氏を迎えて —

The sound world of the Japanese famous composers
~ Performing with the conductor Ebihara Hikaru ~



演出：原郷隆
構成：福嶋頼秀
舞台監督：穂積大志

2015年11月28日[土]
午後1時30分開演
第一生命ホール

主催／特定非営利活動法人日本音楽集団
認定NPO法人トリトン・アーツ・ネットワーク／第一生命ホール

助成／ 平成27年度文化庁文化芸術振興費補助金(トップレベルの舞台芸術創造事業)
公益財団法人 ロームミュージックファンデーション

後援／ 公益財団法人 日本伝統文化振興財団
JAPAN TRADITIONAL CULTURES FOUNDATION



文化庁
Agency for Cultural Affairs
Government of Japan

Rohm Music
Foundation

ロームミュージックファンデーション



前回、第215回定期演奏会(2015年7月、於:よみうり大手町ホール)では、海外の作曲家による邦楽器作品をお聴きいただきました。日本の伝統楽器の音色や奏法といった特徴は、必ずしもまだ世界に広く知られてはいませんが、作曲家の試行錯誤の結果として革新的な作品が生み出されました。

翻って、日本の、しかも経験豊かな作曲家にとっても、強烈な個性を持つ「邦楽器」という素材は、必ずしも扱いやすいものではないようです。それは、中村八大氏による「秋のコンチェルト」へのコメントが象徴するように、また池辺晋一郎氏も、過去の定期演奏会に寄せた文章の中で、「はじめ、邦楽器が怖かった」と述べています。

日本音楽集団の過去50年の歴史は、この少々「厄介な」邦楽器によるアンサンブルという未踏の世界へのチャレンジでもありました。それは作曲家が牽引して作品を生み出し、演奏家が工夫を凝らして実演していくことによって新たな世界観を生み出していきました。

今回は、舞台・映像・演奏の世界で多数の実績を持つ作曲家、中村八大・池辺晋一郎・和田薫の各氏が、邦楽器に求めた表現と、具現化したい音の世界はどのようなものであったのか、邦楽器への深い理解と大きな期待とを合わせてお感じいただければと思います。

また、新進気鋭の指揮者:海老原光氏に、当団創立に関わった三木稔氏の作品の中でも、最も多く演奏されている「ダンスコンセルタントI(四季)」,当団作曲家、福嶋頼秀の新作「-郷-」を託し、奏者と共に新しい表現の形を模索します。どうぞ最後までお楽しみください。

1、ボレロ モーリス・ラヴェル作曲(1928年)池辺晋一郎編曲(1987年)

[筆簾]西原祐二 [笙]三浦礼美(助演) [笛I]あかる潤 [笛II]遠藤悠紀
[尺八I]米澤浩 [尺八II]阪口夕山 [尺八III]田野村聡 [尺八IV]元永拓
[胡弓]帯名久仁子(助演) [三味線I]穂積大志 [三味線II]簗田弘大
[筑前琵琶]藤高理恵子 [薩摩琵琶]久保田晶子
[二十絃I]山田明美 [二十絃II]熊沢栄利子 [二十絃III]城ヶ崎美保 [二十絃IV]久本桂子
[二十絃V]桜井智永 [十七絃]宮越圭子
[締太鼓]細谷一郎(助演) 仙堂新太郎 [木鉦]富田真由香(助演)
[小鼓]盧慶順 [大太鼓]島村聖香
[指揮]田村拓男

1987年、キングレコードのCD「ボレロ・ジャパネスク」に、サティ、ドビュッシー、フォーレの曲などとともに編曲して収めた作品。仕事をした当初、実は照れていた。が、時を経て、これも邦楽器の一つのシーンだと割り切れるようになった。気楽に楽しんでいただきたい。レコーディングの版より少し編成を小さくしている。(池辺晋一郎/157回定期演奏会 プログラムより)

編曲のポリシーとして、一見背反する次の2点を敢えて設定した。

●原曲のスコアを尊重する。 ●邦楽器の特性を生かし、編曲されたものを「邦楽」として考える。

楽器の種類と数がオーケストラに比し少ないので、やむを得ぬ原曲のカットを最小限ほどこした。

ラヴェルの「ボレロ」での竜笛や能管、さらに筆簾による旋律は、非常に珍しく特異なものであろう。演奏も至難である。同じ曲の終わり近く、小鼓や祭太鼓が入ってくる。これらは、この曲を新しい角度から捕えた新鮮な加入であるはずだ。

(池辺晋一郎/「ボレロ・ジャパネスク」 ライナーノーツより)

2、秋夢譚 和田薫作曲(2009年)

[笛]あかる潤 [尺八I]米澤浩 [尺八II]田野村聡
[三味線]穂積大志 [琵琶]久保田晶子
[二十絃I]熊沢栄利子 [二十絃II]久本桂子 [十七絃]丸岡映美
[打楽器]盧慶順 富田真由香(助演)
[指揮]苦米地英一

この作品は、日本音楽集団創立45周年記念の委嘱作品として、2009年春頃より着手し10月に脱稿しました。日本音楽集団の基本編成である笛・2本の尺八・細棹三味線・薩摩琵琶・二面の二十絃箏・十七絃箏・2人の打楽器奏者という編成のために作曲されています。

曲は、大きく4つの部分から構成されています。衝撃的な打音と共に琵琶と笛のモチーフを受け、2本の尺八による主テーマが幽玄的に邂逅する導入部。十七絃箏と打楽器によるオスティナートに二十絃箏と笛の優雅な舞。二面の二十絃箏による静寂な調べ。そして10の楽器が錦絵のように織りなすアレグロ部で曲は終結されます。この4つの部分は全て主テーマを構成する[D-A-E♭]の組み合わせで構成され、10の楽器と4つの部分を融合する核となっています。

タイトルの「秋夢譚」は、物語風に自由に構成された形式と、「秋に寄せる」という初演時の定期演奏会の副題から想起されたものです。

古典と現代の狭間で、それらを区別するのではなく、それぞれの旨味と邦楽器アンサンブルの更なる展開を、この作品へ企図しました。45周年の足跡の一つとして現代邦楽界の新たなレパートリーにならんことを期し願うところであります。

(和田 薫/初演プログラムより)

3、ダンスコンセルタント第1番《四季》 三木稔作曲(1973年)

[笛]遠藤悠紀 [尺八I]元永拓 [尺八II]原郷隆
[三味線]簀田弘大 [琵琶]藤高理恵子
[箏I]山田明美 伊藤麻衣子 [箏II]桜井智永 石井香奈 [十七絃]城ヶ崎美保 丸岡映美
[打楽器]盧慶順 細谷一郎(助演)
[客演指揮]海老原光

作曲者:三木稔が、かつて音楽を担当した舞踊シーンから楽しく美しい旋律を選び、夏の合奏研究会にて再編成された組曲。四季を表現する各章は文字通り〈踊る春〉、抒情的な〈水巡る〉、〈秋、そして〉穫り入れの踊りを経て、クールな〈風の花〉が〈エピローグ〉でしめくられる構成になっている。日本音楽集団・第21回定期演奏会にて初演された。

…休憩……………

4、秋のコンチェルト 中村八大作曲(1984年)

[笛]遠藤悠紀 [尺八I]阪口夕山 [尺八II]米澤浩 [三味線]簀田弘大 [琵琶]藤高理恵子
[箏I]熊沢栄利子 [箏II]山田明美 [十七絃]宮越圭子
[打楽器]仙堂新太郎 島村聖香
[客演指揮]稲田康

— 恐ろしい音調の世界 —

年を経るにつれて、だんだんと邦楽曲の良さにひかれて来るようになった。特に日本音楽集団の演奏会へは、度々足を運び大いに楽しませていただいた。

ある日、「音楽集団の曲を書きませんか」と聞かれて大喜びした。さて、取りかかってみて、この音の少ない世界の表面に見えない奥の深さが底知れず見えて来て、探れども探れども、とても手に負えない事がわかった。

日本の秋を書くつもりだったのが、何時のまにか中国大陸の秋になってみたりもした。少年期に中国で育っただけなのに、どうしてもカラッとした中国風の秋になってしまうのだろう。日本の秋を連想される方は、どうぞごかんべん下さい。日本以外にも秋はあるのです。

西欧の調性の世界の音楽界はすでにいきづまっている。このチャンスを期に、音の少ない、底知れず奥の深い邦楽の世界に、とっぴりと身体を浸らせてみたいと思っている。

(中村八大／初演プログラムより)

「上を向いて歩こう」などで、日本だけでなく世界中の人々に愛されてきた作曲家:中村八大(1931-1992)の邦楽器作品。1984年に日本音楽集団・創立20周年を記念して委嘱、第85回定期演奏会にて初演された。

ごう

5、邦楽合奏のための一郷一 福嶋頼秀作曲(委嘱初演)

[笙]西原祐二 [笛]あかる潤 [尺八I]原郷隆 [尺八II]田野村聡 [尺八III]元永拓
[胡弓]帯名久仁子(助演) [三味線]穂積大志 [琵琶]久保田晶子
[二十絃I]桜井智永 [二十絃II]久本桂子 [二十絃III]丸岡映美 [十七絃]城ヶ崎美保
[打楽器]島村聖香 細谷一郎(助演)
[客演指揮]海老原光

みなさんは「郷」いう文字から、どんな言葉を思い浮かべますか? 心の故郷。郷愁を感じる。郷に入っては郷に従え。そういった人々の心の奥底にある大切なもの…アイデンティティーや懐かしさ、価値観…といったものを表すのが「郷」ではないでしょうか。

この作品は、日本音楽集団という個性豊かな和楽器奏者の集まりを通して、音楽的な「郷」をさまざまな形で表現した合奏曲です。その特徴の一つは楽器編成で、各3パートに分かれた尺八・箏を生かしたアンサンブル、笙や竜笛による雅楽的な響き、胡弓の擦弦楽器ならではのフレーズ、等々にも注目してお聴き下さい。

第1章はプロローグ的な短い章。太鼓の2重奏で始まり、箏・尺八・笛のどこか気まぐれなフレーズが続きます。そして、三味線や琵琶に導かれ、尺八がこの曲の重要なモチーフをさりげなく提示します。

第2章はゆったりとした長い章です。前半は、箏のキラキラとした和声的な音楽と、尺八・三味線による対位法的な音楽。続いて、雅楽的な響きとリズム群が特徴的な中間部となり、そして再び前半の音楽が、新たな要素を加えて再現されます。

第3章は速いテンポのとてもにぎやかな章。尺八のムラ息の中から、祭り囃子ふうなメロディーが出現し、半音階的な進行による展開で気持ちを高めながら、一直線にコーダへと進んでゆきます。

ぜひ、みなさんそれぞれの「郷」のイメージを重ね合わせながら、お楽しみください。

客演指揮

海老原 光 Hikaru Ebihara

1974年鹿児島生まれ。鹿児島ラ・サール中学校・高等学校、東京芸術大学を卒業、同大学院修了。その後ハンガリー国立歌劇場にて研鑽を積む。2007年ロブ・フォン・マタチッチ国際指揮者コンクールで第3位入賞。2010年より2015年9月まで東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団アソシエイト・コンダクターを務め、国内オーケストラと客演を重ねている。また2012年に続き、2015年1月に再びクロアチア放送交響楽団の定期公演(ザグレブ)に出演し、現地で好評を博した。 オフィシャル・ホームページ: <http://www.hikaru-ebihara.jp/>



特定非営利活動法人日本音楽集団

【正会員】 (団員) (楽器別・五十音順)

笛
 潤紀生 誠平 (尺八)
 悠有 浩
 藤保井 川
 新井 西
筆
 西原 祐二
 三浦 元則
尺八
 賀悠司
 大阪口山
 田野聡
 原郷隆
 藤崎重
 三橋貴風 (笛)

宮田耕八朗
元永拓
米澤浩
渡辺淳
三味線
 杵家七三
 穂積弘大
 養田司郎
 守啓伊子
 山崎千鶴子
琵琶
 久保田晶子
 首藤久美子
 田原順子
 藤高理恵子

箏
 石井香奈子
 伊藤麻衣子
 岡山亮子
 久東寿子
 熊沢栄子
 桜井智永美
 佐藤里美
 島崎春美
 城ヶ崎恵美
 彦坂桂美
 久岡映美
 丸宅礼美
 三越圭美
 宮田明美
 山渡正美

打楽器
 白杵美智代
 尾崎村太一
 島仙堂新太郎
 多田恵子
 山内利一
 盧慶順
指揮
 稲田康男
 田村拓男
 苦地英一
楽器・舞台
 中島隆

作曲
 秋岸寛久
 川崎絵都夫
 篠田大介
 高橋久美子
 福嶋頼秀
名誉代表
 田村拓男
代表
 尾崎太一
副代表
 米澤浩
運営委員
 久保田晶子
 桜井智永

原郷隆
 久本桂子
 穂積大志
 元永拓
 山崎千鶴子

監事
 田村拓男
 三田村典昭
アートマネージメント
 大西愛子
事務局
 中山美穂子
永久名誉団員
 長澤勝俊

2015年11月現在(※印は休団中)

● 賛助会員へのお誘い ●

1999年10月、特定非営利活動法人日本音楽集団が発足したのを契機に、賛助会員を募集しています。多くの方々からの支援を仰ぎ、息の長い活動の定着と発展を目指したく、ご協力をお願い申し上げます。

年間 個人会員10,000円(一口以上) 法人会員30,000円(一口以上)

【賛助会員】(口数・五十音順)

[法人]
 神戸レコード倶楽部/宅音便(有限会社 文)
 青和観光株式会社 代表取締役 青木茂
 日凸運送株式会社
 有限会社 邦楽ジャーナル

【個人】

水野正徳
 *
 池田紫真
 江西緑

小野永恵
 柿崎やよい
 小池節子
 嵯峨山あき子
 佐藤裕美

佐藤玲子
 杉山英樹
 添川浩史
 東谷仁子
 富山優子

友杉穀子
 西野千恵子
 堀保之徳
 三宅一徳
 藤川雅之

元永明希
 元永美代子
 森繁美
 山本友英
 その他3名
 (2015年11月現在)

三味線・箏

株式会社 琴光堂

〒152-0003 東京都目黒区碑文谷 2-19-15
 TEL 03(3792)8481 FAX 03(3792)8437
 URL: <http://kinko-do.com/>
 E-mail: tokyo@kinko-do.com

特定非営利活動法人

日本音楽集団

〒151-0073 東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビルB1 TEL03-3378-4741 FAX03-3376-2033
 ホームページ <http://www.promusica.or.jp> E-Mail office@promusica.or.jp